

## V 調査結果

### ～関係機関（従事者）調査～

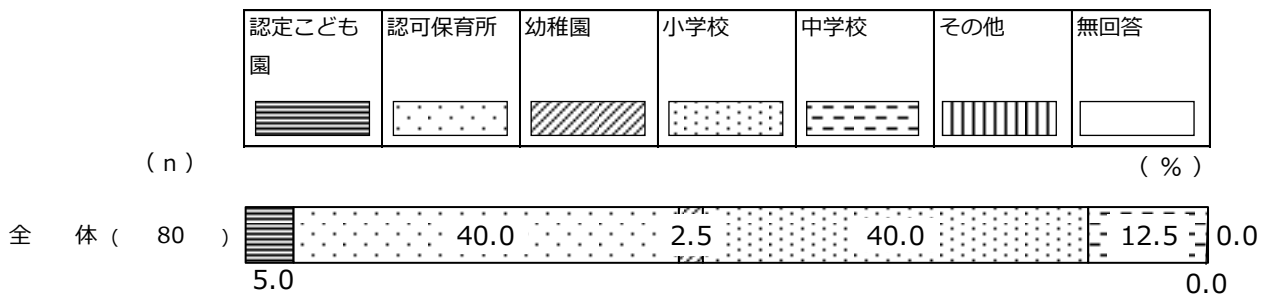
V. 調査結果 ～関係機関（従事者）調査～

1. 従事者について

① 勤務先

問 1. あなたの勤め先をお答えください。 (○は一つだけ)

勤務先として、「認定こども園」が 5.0%、認可保育所が「40.0%」、「幼稚園」が 2.5%、「小学校」が 40.0%、「中学校」が 12.5%であった。

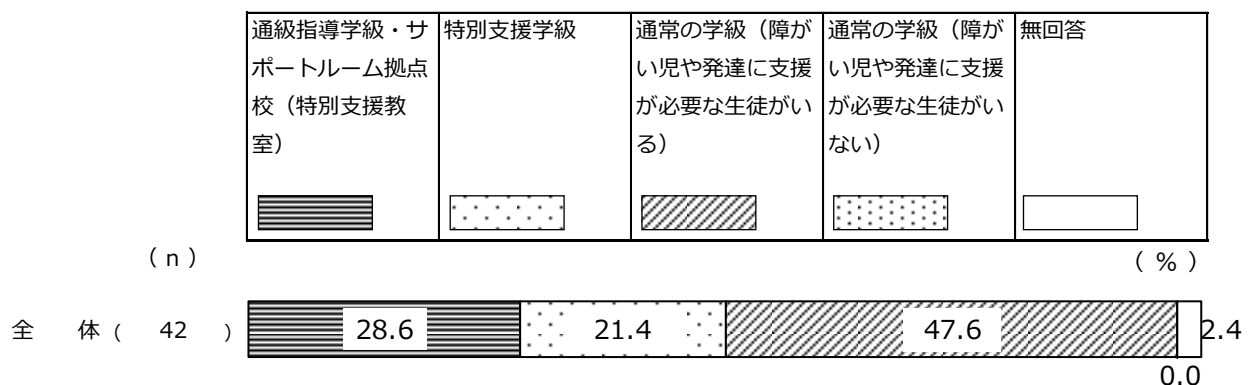


② 現在の担当

【問 1 で「4. 小学校」「5. 中学校」を選択した方にお伺いします】

問 1-1. あなたの現在の担当をお答えください。 (○は一つだけ)

小学校・中学校の従事者の現在の担当として、「通級指導学級・サポートルーム拠点校（特別支援教室）」が 28.6%、「特別支援学級」が 21.4%、「通常の学級（障がい児や発達に支援が必要な生徒がいる）」が 47.6%、「通常の学級（障がい児や発達に支援が必要な生徒がいない）」が 0.0%であった。



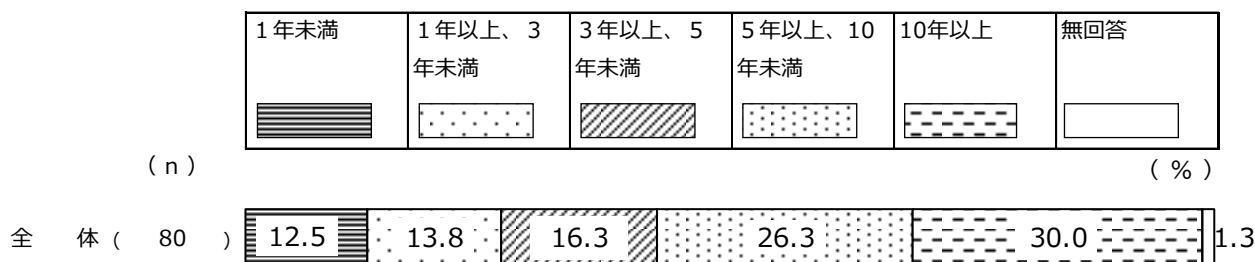
③ 現在の勤め先での従事年数

【改めて全ての方にお伺いします】

問2. 現在の勤め先での従事年数をお答えください。

(○は一つだけ)

現在の勤務先での従事年数で「10年以上」が30.0%と最も高く、次いで「5年以上、10年未満」が26.3%であった。

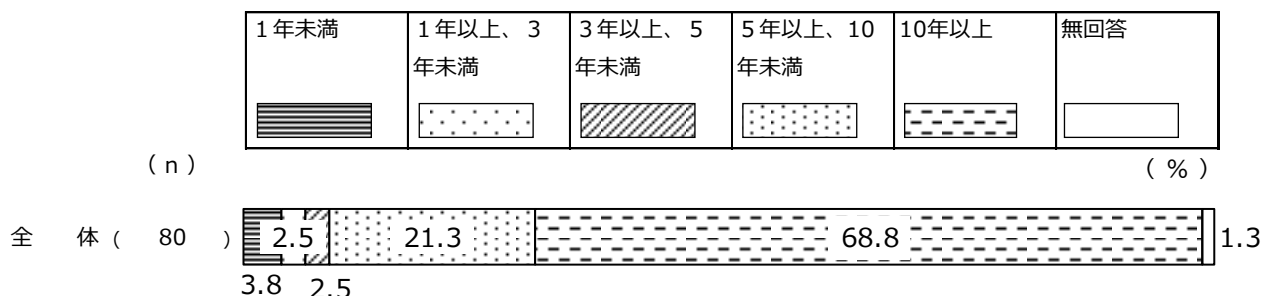


④ 子どもに関わる仕事の経験年数

問3. 子どもに関わる仕事の経験年数をお答えください。

(○は一つだけ)

子どもに関わる仕事の経験年数として、「10年以上」が68.8%と最も高く、次いで「5年以上、10年未満」が21.3%であった。



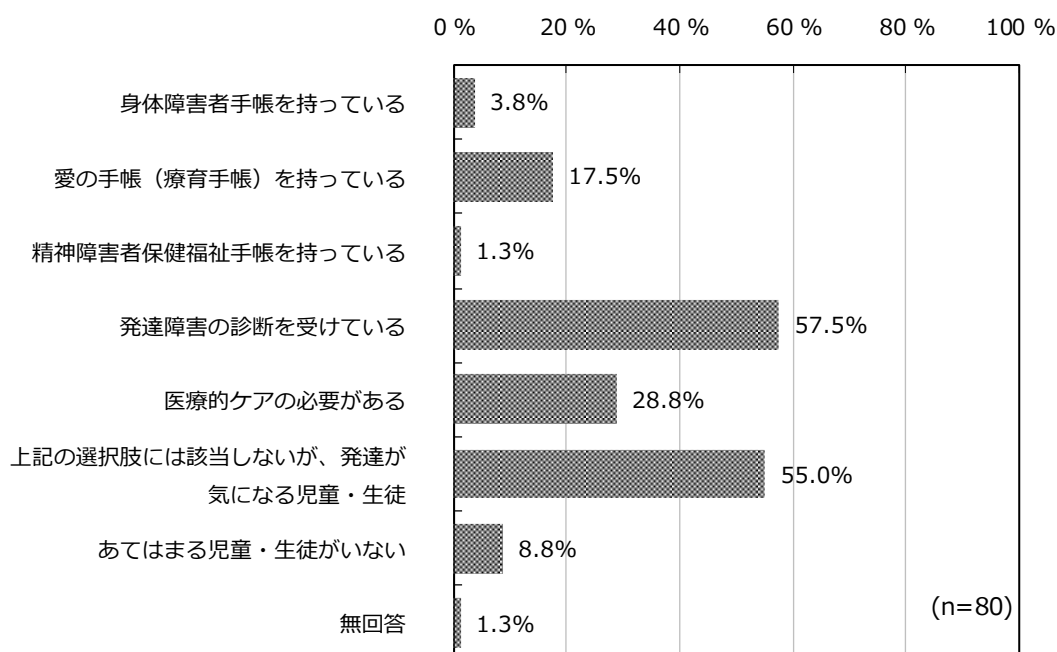
## 2. 担当している児童・生徒について

### ① 現在担当している児童・生徒の状況

問4. 現在、あなたの担当している児童・生徒に、以下の選択肢にあてはまる児童・生徒はいま  
すか。 (あてはまるもの全てに○)

現在担当している児童・生徒の状況について、「発達障害の診断を受けている」が57.5%と最も高く、次いで「医療的ケアの必要がある」が28.8%であった。

「上記の選択肢には該当しないが、発達が気になる児童・生徒」は55.0%であった。

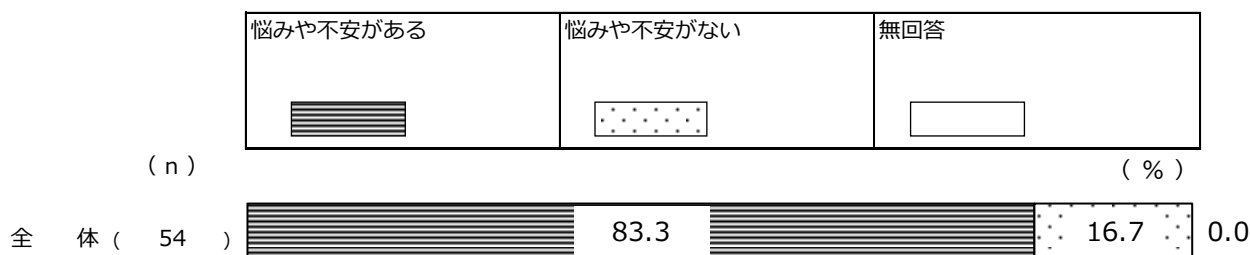


### ② 担当している児童・生徒に対する悩みや不安

【問4で「1」～「5」のいずれかを選択した方にお伺いいたします】

問5. 先ほどお答えいただいた、担当している児童・生徒への対応について、悩みや不安はあり  
ますか。 (○は一つだけ)

担当している児童・生徒に対する「悩みや不安がある」は83.3%、「悩みや不安がない」が16.7%であった。



## ③ 悩みや不安の内容

【問5で「1. 悩みや不安がある」を選択した方にお伺いいたします】

問6. 悩みや不安の内容について、ご自由にご記入ください。

| 自由意見       | 39 件 |
|------------|------|
| 支援・援助について  | 24 件 |
| 指導方法について   | 12 件 |
| 家庭との連携について | 3 件  |
| 体制について     | 3 件  |
| その他        | 3 件  |

※1つの意見が複数のカテゴリーに該当することがあり、各カテゴリーの意見の合計と自由意見の件数が一致しない場合があります。

## 自由意見（一部抜粋）

【支援・援助について】

- 集団で動くことが難しい場合の関わり方。
- その子に対して適切な支援ができていないか。
- その子に合った支援方法、環境設定。
- 他の子の対応が多く障がい当事者に対する支援ができない。
- 学力が低く、学習障がいの疑いがある児童がいる。空気が読めず、切り替えが苦手な児童がいる。不登校の児童がいる。

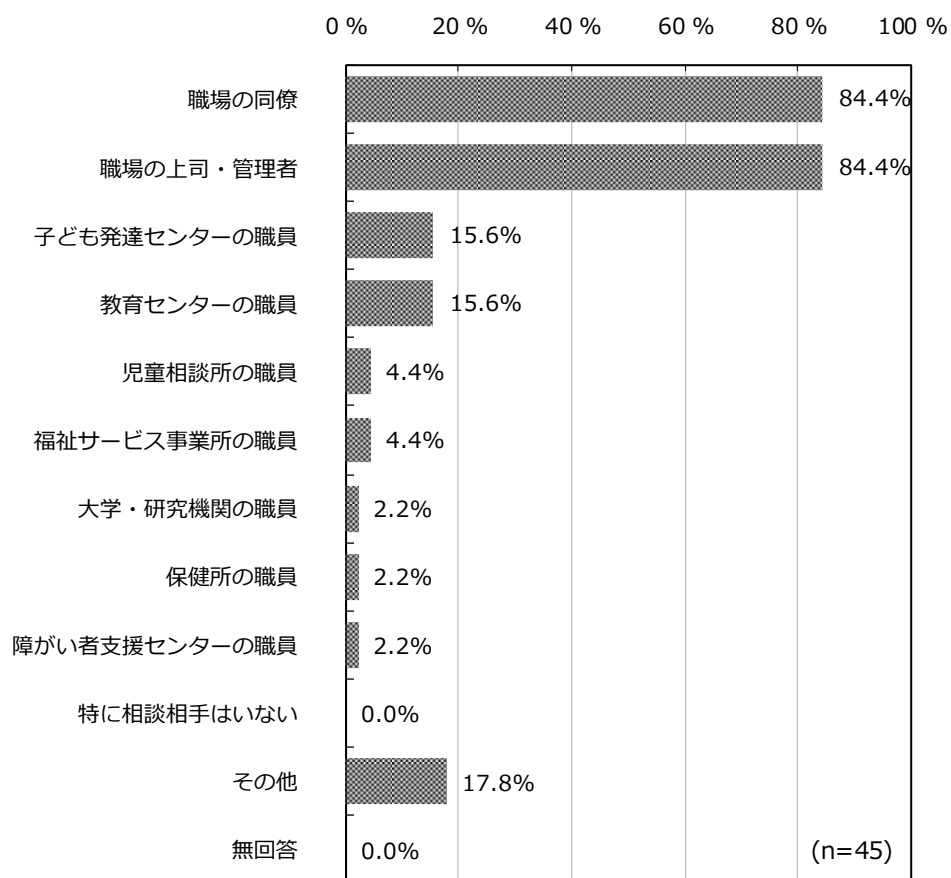
【指導方法について】

- 指導法について。
- 発達障がいと疑われる児童に指導が入らない。
- 個の特性に応じた指導方法。
- 学級や教室での指導法について。
- 個々の特性に合わせた指導が適切に行われているかどうか。

④ 児童・生徒に対する悩みや不安の相談相手

【問5で「1. 悩みや不安がある」を選択した方にお伺いいたします】  
 問7. 児童・生徒への対応の不安や悩みについての相談相手として、あてはまるものをお選びください。  
 (あてはまるもの全てに○)

児童・生徒に対する悩みや不安の相談相手として、「職場の同僚」「職場の上司・管理者」が84.4%と最も高く、次いで「子ども発達センターの職員」「教育センターの職員」が15.6%であった。

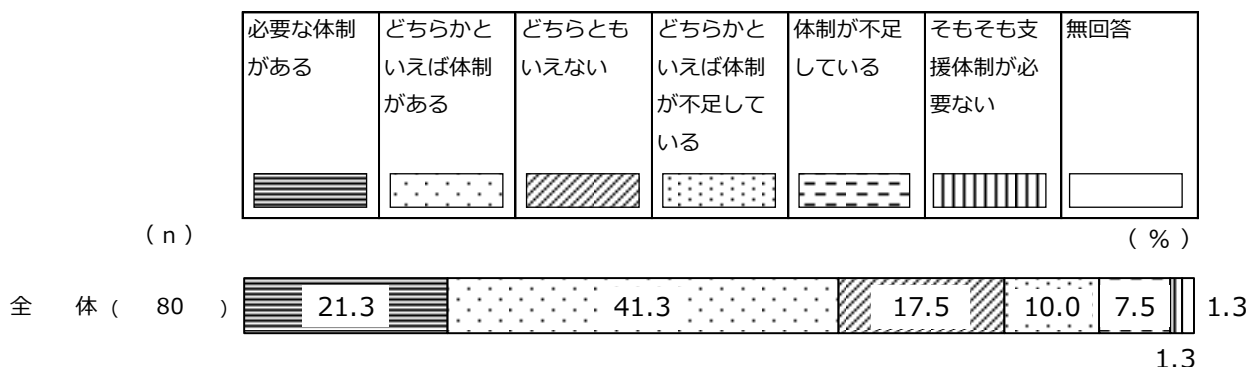


⑤ 勤務先の支援体制

【改めて全ての方にお伺いします】

問8. 障がいや発達に遅れのある児童・生徒への対応について、あなたの勤め先での支援体制の評価をお選びください。（○は一つだけ）

勤務先での障がいや発達に遅れのある児童・生徒への対応において『必要な体制がある』（「必要な体制がある」+「どちらかといえば体制がある」の合計）は62.6%であった。



⑥ 早急な対処が必要なこと

【問8で「4」～「5」のいずれかを選択した方にお伺いいたします】

問9. 不足している体制について、早急な対処が必要なことをご自由にお書きください。

全体 (n=14)

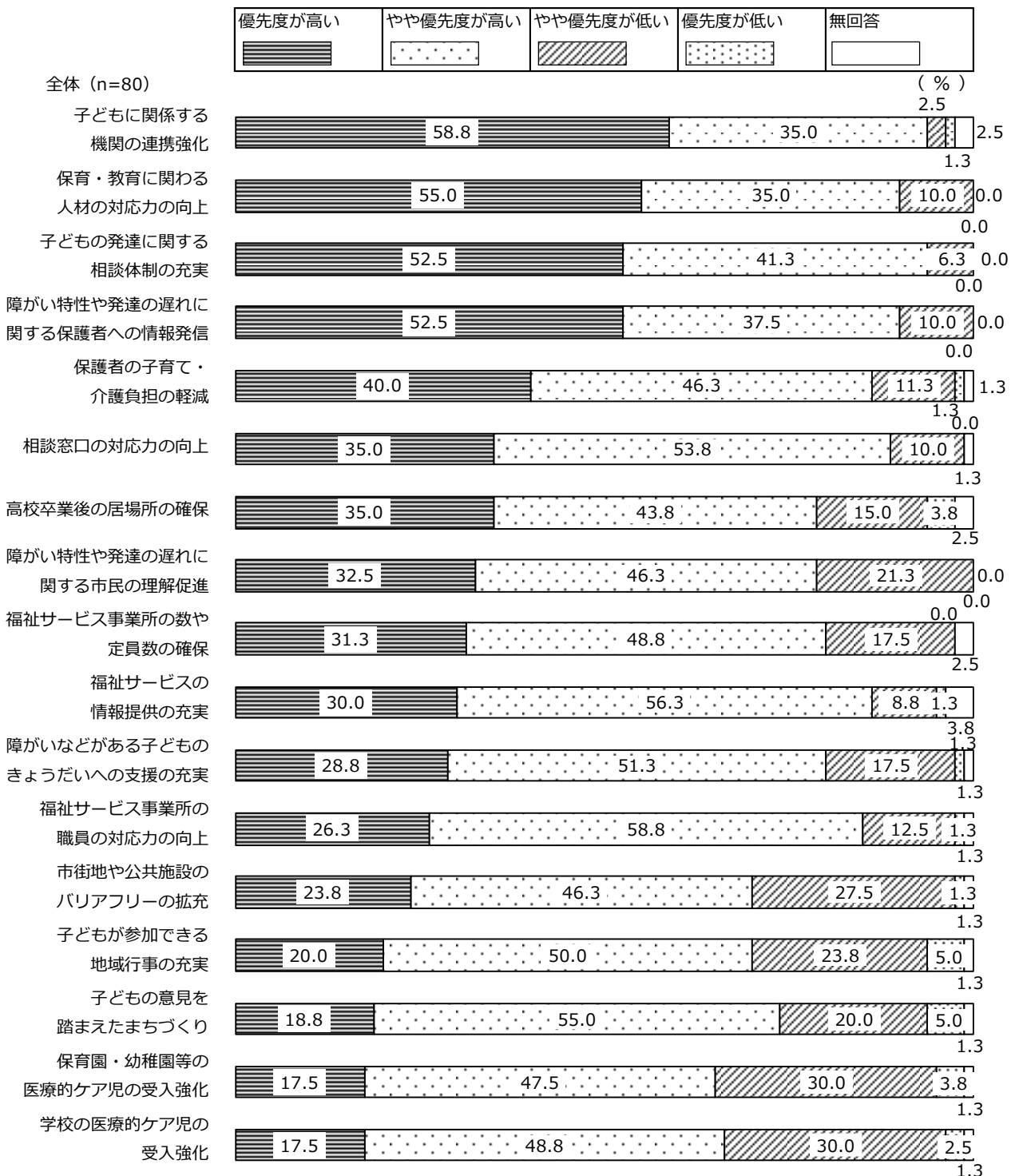
- 人手が足りません。
- 人手不足。
- 対応できる人手と専門的な知識を持っている方の具体的な見立てや、アドバイス。
- 人員不足でそのような子を手厚く見る、支援、援助する事が出来ない。また、見られる職員が少ない。(経験不足)
- 各クラスに支援員を配置すべき。
- 加配がつけられない。
- 支援員の配置と、クールダウンのための空き教室。特別支援学級も、子供が学校にいる間は配置をしてほしい。通常学級で児童が崩れた際、見守る教員や場所がない。
- 児童の数に対して教員や支援員が足りず、子どもへの支援が十分に出来ないことがある。
- 支援を要する児童に付き添う大人がいない。人的支援が必要。
- カウンセラーや心理士の派遣日数が少なく、なかなか予約が取れない。
- 話し合う時間。
- 保護者に普段の様子や集団生活の上での本児の困っている状況などを、伝える事からハードルが高く保護者自身受け入れるのに時間がかかる。外部へつなげたいが、保護者の了承や手順の仕方、マニュアルなどもない。ケースバイケース。そしてデリケートな問題のため、中々進む事がない。グレーと感じてしまう子どもについて。
- 遅れが見られるお子さんに対して保護者が認知しておらず、園からのアプローチが困難である。健診等では見落とされてしまう場合がある。
- 支援センターは関わっている子どもしか対応しない。

### 3. 調査問共通設問

#### ① 今後の町田市の障がい児施策優先度

問 10. 今後、障がい児に関する施策を進めていくにあたって、町田市はどのようなことを充実させていけばよいか、各項目の優先度についてお答えください。(〇はそれぞれに一つずつ)

今後の町田市の障がい児施策として、「優先度が高い」施策は「子どもに関係する機関の連携強化」が 58.8%と最も高く、次いで「保育・教育に関わる人材の対応力の向上」が 55.0%であった。



※項目名は、調査票提示順ではなく「優先度が高い」の割合が高い順に並び替え



## ② 複合化後の「子ども発達センター」について求めること

問 11. 「子ども発達センター」は、2028年度以降に現在の「教育センター」（町田市木曽東 3-1-3）の敷地内に設置を予定している複合施設（（仮称）子ども・子育てサポート等複合施設）へ移転する予定です。複合化された後の「子ども発達センター」に求めるものについてあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの全てに○）  
※運営は民間活力の導入を予定しています。

複合化後の「子ども発達センター」に求めることとして、「職員・スタッフが充実していること」が80.0%と最も高く、次いで「障がい児が利用しやすい環境であること」が67.5%であった。

